

関空島

WEATHER REPORT

8月号
2026年

ご利用の前に
 この内容には、航空気象で利用する用語や、観測で使用する機器等の略語がでてきます。これらの解説を巻末に掲載していますので適宜ご利用ください。

関空島の7月のトピックス

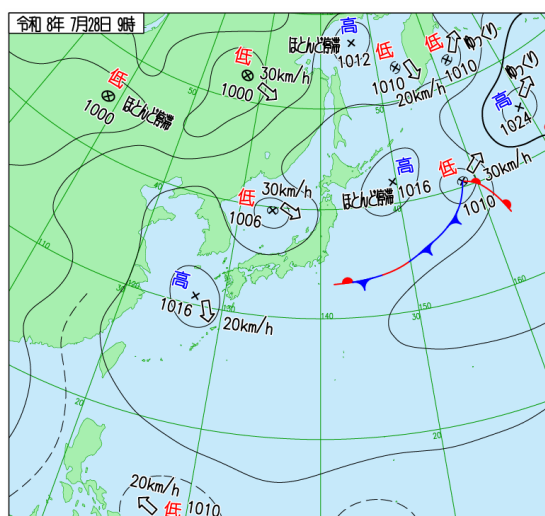
雷雨と冷氣外出流

28日夕方、熊本県で最大震度7の地震が発生したほぼ同時刻、関西国際空港では雷を伴う発達した対流雲により激しい雷雨となりました。この対流雲の接近や通過に伴い冷氣外出流が発生し、風向の急変や突風、急激な気温低下を観測しました。

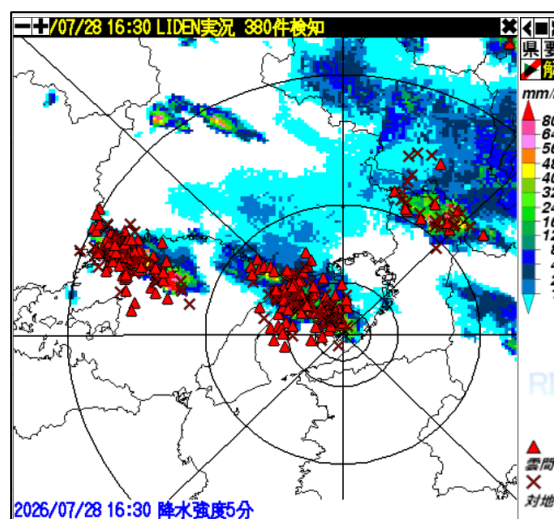
28日の西日本は太平洋高気圧の圏内で暖かく湿った空気に覆われていました。また、午前中は晴天となったため内陸を中心に多くの地点で35℃以上の猛暑日となりました。一方、上空には500hPaで氷点下6℃以下の寒気を伴う気圧の谷が通過したため、大気の状態は非常に不安定となりました。

近畿地方では、昼過ぎから山沿いを中心に対流雲が発達し、盛衰を繰り返しながら次第に南下して夜遅くにかけて通過しました。関西国際空港では、16時13分から20時00分にかけて断続的に雷を観測し、一時的に激しい雨や突風を伴いました。最大風速は、16時35分に北北西の風11.5m/s（22kt）、最大瞬間風速は16時28分に北北西の風24.7m/s※（48kt）を観測しました。

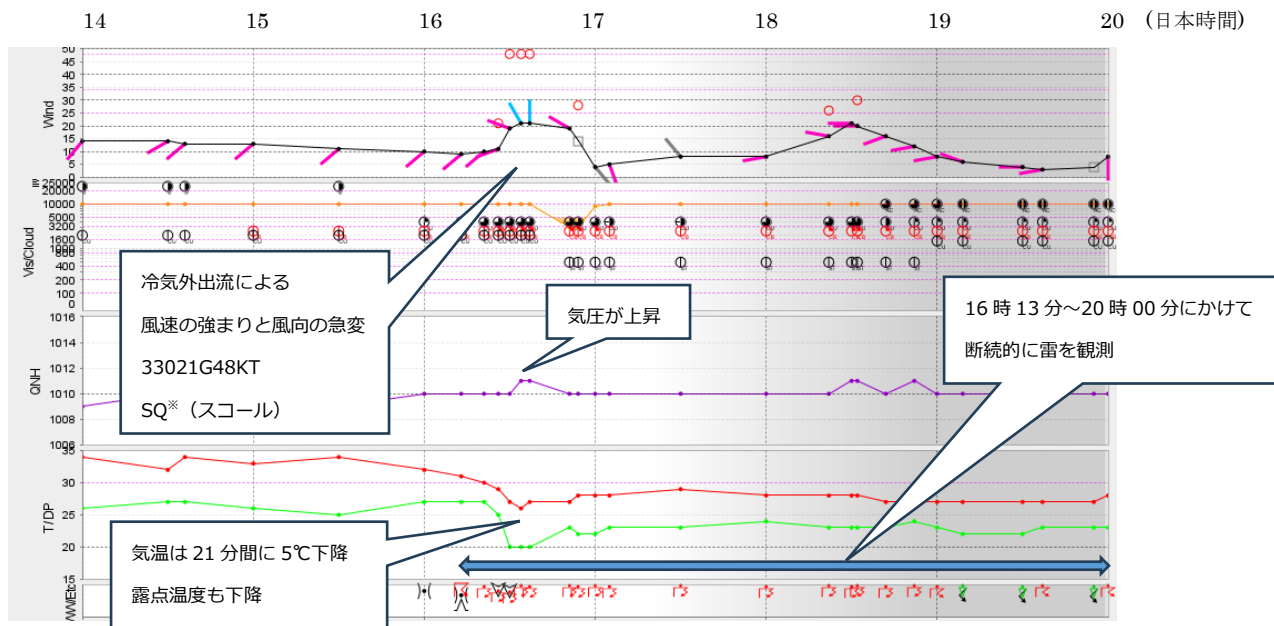
※2009年の統計開始以来7月の7位を更新



第1図 速報天気図（28日09時）



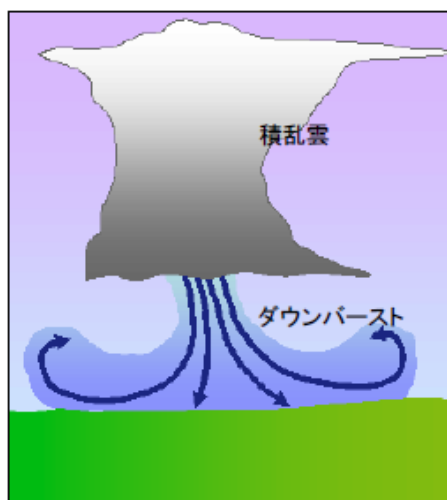
第2図 LIDENによる雷実況と降水強度（5分）の重ね合わせ
 （28日16時30分）



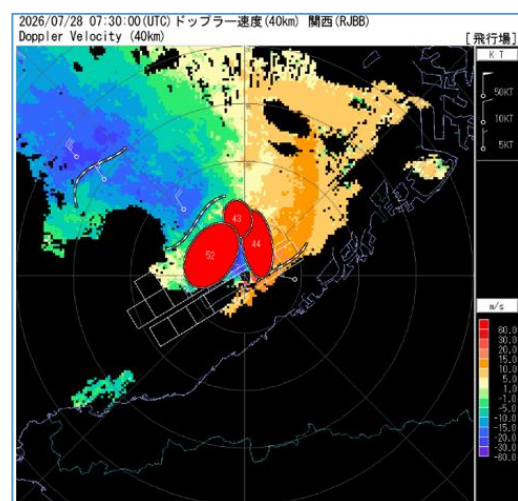
第3図 関西国際空港の気象観測データ (28日14時~20時)

※S Q (スコール) : 気象現象上は風速が急速に強まり数分後には弱まる現象をいうが、航空気象観測においては、瞬間風速が1分間に16kt (約8m/s) 以上増加してその状態が少なくとも1分以上持続し、かつ持続期間の平均風速が22kt (約11m/s) 以上である現象をいう。

冷氣外出流とは、積乱雲中の降水や蒸発によって冷やされて周囲より重くなった空気が下降し、地表付近で外側に向かって放射状に広がる現象を指します。冷氣外出流のうち、積乱雲から爆発的に吹き降ろす気流およびこれが地表に衝突して吹き出す破壊的な気流をダウンバーストといいます。ダウンバーストの特徴としては、①強風の吹き始めから終わりまでほぼ風向が一定。②発生場所付近に対応するレーダーエコーがある。③気圧が上昇する。④強風の開始と同時に気温が下降し湿度が上昇することがあげられます。また、ダウンバーストはその水平的な広がり的大小により、マクロバースト (4km 以上)、マイクロバースト (4km 以内) の2つに分類されます。



第4図 ダウンバーストのイメージ図



第5図 空港ドップラーレーダーによる観測 (28日16時30分)
(赤丸はマイクロバースト、リード野線はシアーライン)

関空島の7月の極値・順位値の更新

7月の極値と順位値の更新状況は以下の URL のページを参照ください。

https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/rank_a.php?prec_no=62&block_no=1471&year=2026&month=07&day=&view=

関空島の7月の観測結果

気象庁ホームページでは、関西国際空港（アメダス・関空島）の観測データをご確認頂くことができます。以下の URL のページをご覧ください。

気象庁ホームページ：関空島（大阪府） 2026 年 7 月

https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/daily_a1.php?prec_no=62&block_no=1471&year=2026&month=7&day=&view=

関空島 WEATHER REPORT で使用する航空気象に関する用語の解説

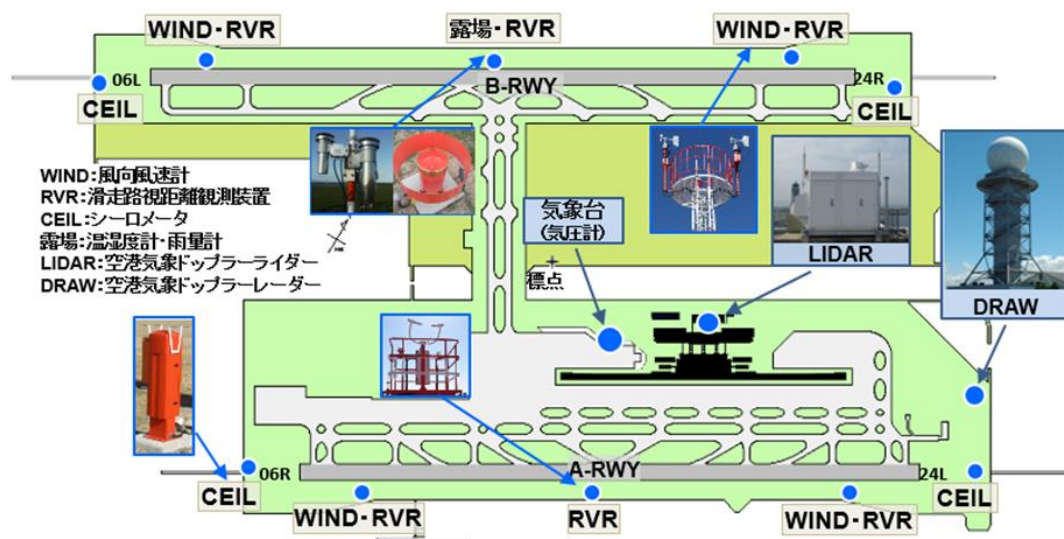
気象観測施設の配置とデータ利用について

気象観測施設は、関空島の A-RWY(3500m)と B-RWY(4000m) 周辺に配置した屋外観測装置と、当台気象観測室(航空庁舎ペントハウス)に設置した気象観測報の作成、配信等の処理を行う屋内観測装置で構成する。

屋外観測装置からのデータは屋内観測装置に表示し、METAR-AUTO 報として 10 分毎に自動配信するとともに、屋上で行う目視による観測とあわせて航空観測気象報(METAR 報、SPECI 報)で配信する。

また、日本時間の 23 時 00 分～翌日 05 時 59 分の間は、全要素とも自動観測・自動判別結果を用いた METAR/SPECI 報(以下「自動 METAR/SPECI 報」という。)を通報する。自動 METAR/SPECI 報で通報する視程や雲、現在天気は目視観測とは異なる特性・特徴を持っている。

航空観測気象報で通報する風は「06L」の観測値である。障害等で「06L」が使用できない時は「06R、24R、24L」の順に代用して通報し、RMK に使用した風向風速計名を記載する(例: WIND BY EQPT/06R)。



関空島内の気象観測機器配置状況